国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年生	担当教員	高橋
科　目　名	English Strategy TOEIC	時間数	170単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業/オンライン
使用テキスト名	公式TOEIC　Listening ＆Reaqding プラクティス　リスニング編、リーディング編		
補助教材	公式TOEIC　Listening ＆Reading 6・7		

科目概要と科目到達目標

科目到達目標：ListeninngとReadingの模試問題を集中的に学習し、トレーニングによって解法を身に付け
9月のTOEIC公開テストで700点、11月のTOEIC公開テストで800点を目指す

授業の進め方・学習方法・課題

問題集を使用した実践形式のリーディング問題に慣れることにより得点力の向上を狙う。
繰り返し音声を聞くことにより、音声を記憶する。
ミニテストによる学習進捗状況の確認。
対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①定期試験50%　②TOEIC公式テストスコア20%　③課題提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】
A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた
B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している
C＝良（79－79点）　到達目標を達成している
D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している
E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

貿易会社での翻訳業務経験7年
大手英会話教室講師経験あり

週数	学習内容	学習のねらい
1	リスニング編　Part1 写真描写問題	リスニング力の向上
2	リスニング編　Part2 応答問題	リスニング力の向上
3	リスニング編　Part3 会話問題	リスニング力の向上
4	リスニング編　Part4 説明文問題	リスニング力の向上
5	リーディング編　Part5 短文穴埋め問題	リーディング力の向上
6	リーディング編　Part5 短文穴埋め問題	リーディング力の向上
7	リーディング編　Part6　長文穴埋め問題	リーディング力の向上
8	リーディング編　Part6　長文穴埋め問題	リーディング力の向上
9	リーディング編　Part7　読解問題	リーディング力の向上
10	リーディング編　Part7　読解問題	リーディング力の向上
11	TOEIC模擬テスト	総合的な得点力の向上
12	TOEIC模擬テスト	総合的な得点力の向上
13	評価	まとめテスト
14	TOEICテスト公式問題集 6 Test 1	総合的な得点力の向上
15	TOEICテスト公式問題集 6 Test 1	総合的な得点力の向上
16	TOEICテスト公式問題集 6 Test 1	総合的な得点力の向上
17	TOEICテスト公式問題集 6 Test 1	総合的な得点力の向上
18	TOEICテスト公式問題集 6 Test 1	総合的な得点力の向上
19	TOEICテスト公式問題集 6 Test 1	総合的な得点力の向上
20	TOEIC公開テスト対策	公開テスト対策
21	TOEICテスト公式問題集 6 Test 2	総合的な得点力の向上
22	TOEICテスト公式問題集 6 Test 2	総合的な得点力の向上
23	TOEICテスト公式問題集 6 Test 2	総合的な得点力の向上
24	TOEICテスト公式問題集 6 Test 2	総合的な得点力の向上
25	TOEICテスト公式問題集 6 Test 2	総合的な得点力の向上
26	TOEICテスト公式問題集 6 Test 2	総合的な得点力の向上
27	TOEICテスト公式問題集 6 Test 2	総合的な得点力の向上
28	TOEIC公開テスト対策	公開テスト対策
29	TOEICテスト公式問題集 7 Test 1	総合的な得点力の向上
30	TOEICテスト公式問題集 7 Test 1	総合的な得点力の向上
31	TOEICテスト公式問題集 7 Test 1	総合的な得点力の向上
32	TOEICテスト公式問題集 7 Test 1	総合的な得点力の向上
33	TOEICテスト公式問題集 7 Test 1	総合的な得点力の向上
34	評価	まとめテスト

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1学年	担当教員	阿部塊地
科　目　名	Intensive　English　Ⅰ	時間数	34単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業/オンライン
使用テキスト名	CALLAN　METHOD Student7s Book With Vocabulary Stage 1　　Intensive English student work		
補助教材			

科目概要と科目到達目標

読む、書く、聞く、話すの4技能を習得する

授業の進め方・学習方法・課題

レベルに合わせたクラス分けにより、語彙、センテンス、リーディングから読解法をマスターさせる

リスニング対策を定期的に行う

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①英検合格50%　②　定期テスト20%　③　課題提出率20%　⑤　授業態度10%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	【演習】文の内容一致選択　①	リスニング力を向上させる
2	【演習】文の内容一致選択　②	リスニング力を向上させる
3	【演習】音読パッセージ問題①	スピーキング力を向上させる
4	【演習】音読パッセージ問題②	スピーキング力を向上させる
5	短文の語句空所補充①	りーディング力を向上させる
6	短文の語句空所補充②	りーディング力を向上させる
7	会話の内容一致選択①	リスニング力を向上させる
8	会話の内容一致選択②	リスニング力を向上させる
9	イラスト問題①	スピーキング力を向上させる
10	イラスト問題②	スピーキング力を向上させる
11	意見・応答問題①	スピーキング力を向上させる
12	意見応答問題②	スピーキング力を向上させる
13	意見応答問題③	スピーキング力を向上させる
14	長文の語句空所補充	りーディング力を向上させる
15	長文の語句空所補充	りーディング力を向上させる
16	Eメールの内容一致	ビジネスシチュエーションに対応する
17	Eメールの内容一致	ビジネスシチュエーションに対応する
18	Eメールの内容一致	ビジネスシチュエーションに対応する
19	Eメールの内容一致	ビジネスシチュエーションに対応する
20	TOEIC公開テスト対策	スピーキング力を向上させる
21	意見応答問題⑤	スピーキング力を向上させる
22	CALLAN　METHOD　Lesson 1	会話表現をマスターする
23	CALLAN　METHOD　Lesson 2	会話表現をマスターする
24	CALLAN　METHOD　Lesson 3	会話表現をマスターする
25	CALLAN　METHOD　Lesson 4	会話表現をマスターする
26	CALLAN　METHOD　Lesson 5	状況に応じた返答の仕方をマスターする
27	CALLAN　METHOD　Lesson 6	状況に応じた返答の仕方をマスターする
28	CALLAN　METHOD　Lesson 7	状況に応じた返答の仕方をマスターする
29	CALLAN　METHOD　Lesson 8	問題提起をする
30	CALLAN　METHOD　Lesson 9	問題提起をする
31	Revusion Exercise 1	様々な状況に応じた質問に返答する
32	Revusion Exercise 2	様々な状況に応じた質問に返答する
33	Revusion Exercise 3	様々な状況に応じた質問に返答する
34	Revusion Exercise 4	様々な状況に応じた質問に返答する

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年	担当教員	Mathew/Neil
科　目　名	Communicative Speaking Ⅰ	時間数	34単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業/オンライン
使用テキスト名	World English 1		
補助教材			

科目概要と科目到達目標

英語で基本的なコミュニケーションが図れる能力を身につける。
自己紹介から始まり最終的には自分の意見を伝えることを到達目標とする。

授業の進め方・学習方法・課題

さまざまなTOPICから自分の意見を考えたうえでグループで発表しながら基本的な形式をマスターする
対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①口頭試験50%　②授業への積極的参加20%　③課題提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】
A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた
B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している
C＝良（79－79点）　到達目標を達成している
D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している
E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	Unit 1: People	Meet people; Ask personal info
2		Describe people & occupations; compare
3	Unit 2: A day in the Life	Talk about typical day; free time
4		Describe special days, hobbies, interests
5		Plan a party (Group work)
6	Unti 3: Going Places	Possesions, Travel info, Ask & Give advice
7		Describe a place & Plan a vacation
8		Give presentaion about a vacation
9	Review: Vocab & Speaking	Q & A about your Vacation plan!
10	Unit 4: Food	Recipe, menus, ordereing
11		Talk about diets, Plan a farm or garden
12		Role play: in a resturant, ordering online
13	Unit 5: Sports	Activities, favotire sports, compare
14		Frequency of activity, survey
15	Review: Vocab & Speaking	More role play for activities (Sports or Food)
16		Review vocab & Grammar
17	Test (First five unit test)	Test
18	Unit 6: Destinations	Past vacations, weekend; asking about places
19		Fdescribe qan Ancient place; find and share info online
20	Unti 7: Communication	Personal communication, exchanging info
21		Describe sights, sounds & other sensations
22	Unti 8: Making Plans	Short term or long term, Predictions or opinions about future
23		Solve problems; discuss personality
24	Review: Vocab & Speaking	Group presentation (Introduction)
25		Give presentaion about the future; Q&A
26	Unti 9: Types of Clothing	Compare and buy clothes, Role play shopping
27		Describe and discuss fashion
28	Unti 10: Lifestyles	Discuss healthy & unhealthy habits
29		Lifetyles & Happiness
30	Unti 11: Achievements	Interview for job, Talk about self achievements
31		Plan for success, write resume (English)
32	Review: Vocab & Speaking	Prepare for final test
33		Role play interview
34		Vocab & Grammar test

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	通年
学　　年	1年生	担当教員	小林恵子
科　目　名	Express Japanese Cultures in English 1	時間数	34単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業/オンライン
使用テキスト名	30秒でできるニッポン紹介　おもてなし英会話		
補助教材			

科目概要と科目到達目標

科目概要：外国人とのコミュニケーションが取れる材料となるよう世界の観光について学ぶ。

科目到達目標：世界の観光について学び、グループで学んだ知識を生かしプレゼンテーションができるようになる。

授業の進め方・学習方法・課題

世界の観光について英語で学びその国について簡単なプレゼンテーションができる

授業の進め方については、日本人行使と外国人講師のチームティーチング。

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①プレゼンテーション力50%　②授業への積極的参加20%　③課題提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	Introduction	
2	知っておくと便利なおもてなしの基本表現　1	外国人に質問するフレーズを覚える
3	知っておくと便利なおもてなしの基本表現　2	外国人に質問するフレーズを覚える
4	第1章　日本の佇まい　着物	質問に対する答えをマスターする
5	第1章　日本の佇まい　日本の家屋	質問に対する答えをマスターする
6	第1章　日本の佇まい　暖炉	質問に対する答えをマスターする
7	第1章　日本の佇まい　提灯	質問に対する答えをマスターする
8	第2章　日本の象徴　天皇	質問に対する答えをマスターする
9	第2章　日本の象徴　　富士山	質問に対する答えをマスターする
10	第2章　日本の象徴　　神社	質問に対する答えをマスターする
11	第2章　日本の象徴　　禅	質問に対する答えをマスターする
12	第2章　日本の象徴　　仏教	質問に対する答えをマスターする
13	第2章　日本の象徴　　侍、城	質問に対する答えをマスターする
14	第2章　日本の象徴　　侘び・寂び	質問に対する答えをマスターする
15	ロールプレイング	覚えたことを実際に表現してみる
16	ロールプレイング	覚えたことを実際に表現してみる
17	復習テスト	前期のまとめと振り返り
18	第3章　日本の食文化について	質問に対する答えをマスターする
19	第3章　日本の職　寿司	質問に対する答えをマスターする
20	TOEIC公開テスト対策	質問に対する答えをマスターする
21	第3章　日本の職　天ぷら、焼き鳥	質問に対する答えをマスターする
22	第3章　日本の職　とんかつ　懐石	質問に対する答えをマスターする
23	第3章　日本の職　うなぎ、そば	質問に対する答えをマスターする
24	第3章　日本の職　ラーメン、カレーライス	質問に対する答えをマスターする
25	第3章　日本の職　お好み焼き	質問に対する答えをマスターする
26	第3章　日本の職　どんぶりもの	質問に対する答えをマスターする
27	第3章　日本の職　弁当	質問に対する答えをマスターする
28	第3章　日本の職　梅干し　ワサビ　鰹節	質問に対する答えをマスターする
29	第3章　日本の職　お茶	質問に対する答えをマスターする
30	第3章　日本の職　和菓子	質問に対する答えをマスターする
31	第3章　日本の職　酒	質問に対する答えをマスターする
32	第3章　日本の職　焼酎	質問に対する答えをマスターする
33	ロールプレイング	覚えたことを実際に表現してみる
34	ロールプレイング	覚えたことを実際に表現してみる

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年生	担当教員	小林恵子
科　目　名	英語表現Ⅰ	時間数	34単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業/オンライン
使用テキスト名	Time to Start		
補助教材			

科目概要と科目到達目標

科目到達目標：文法ベースの教科書を使い、フレーズごとに何度もグループで練習し覚えることで外国人と会話フレーズをマスターし会話につなげる

授業の進め方・学習方法・課題

テーマとなる文法を使い分を話す練習を行うと共に口頭で素早く応答するクイックレスポンスのトレーニングを通会話の実践力を行う

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①定期試験50%　②授業への積極的参加20%　③提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	Intro: 適切な英語表現とは	適切yな英語表現について学習する
2	Unit 1:アルバイトって英語じゃなかったの？	和製英語の洗い出しと矯正
3	和製英語と英語の違い	
4	Unit2：足の指はfoot fingerだよね？	身体や部位を示す名詞を学習する
5	身体を示す英語の名詞	
6	Unit3：青りんごはA blue appleでいいの？	正しい形容詞+名詞の作り方を学習する
7	適切な形容詞+名詞を学ぶ	
8	Unit4：道を教えての教えてはteachだよね？	様々な動詞群から適切なものを選ぶ
9	同一の意味でも様々な言い方を学ぶ	
10	確認テスト＆復習	今までの復習
11	Unit5：このスープはいい匂いはthe soup is a good smellでいいの？	知覚動詞の適切な使い方を学習し、SVCを習得する
12	正しい知覚動詞を学ぶ	
13	Unit6：hardはどの語を修飾するの？	副詞+形容詞の使い方を学習する
14	副詞と形容詞について学習する	
15	Unit7：昨夜怖い夢をみたってI saw a bad dreamでいいの？	成句について学習する
16	名詞によって変わる適切な動詞の用法を学ぶ	
17	テスト	
18	前期振り返り	
19	Unit8：否定語をどこに置くの？	適切な否定文の作り方を学習する
20	適切な否定文を学習する	
21	Unit9：私も！はtoo, either?	副詞・副詞+否定語を学ぶ
22	同格、否定の意味をなす前置詞を学ぶ	
23	Unit10：がある・いるは英語でどう表現するの？	構文を用いた様々な言い方を学習する
24	There is構文以外の様々な言い方を学ぶ	
25	Unit11：私は自転車を盗まれたはI was stolen my bikeでいいの？	受け身形+使役動詞を学習する
26	正しい受け身型、主語の変化を学ぶ	
27	確認テスト＆復習	
28	Unit12：似たような単語ばかり、どれを選べばいいの？	単語のもつ様々なニュアンスについて学習する
29	文意、ニュアンスに合わせた単語選択を学ぶ	
30	Unit13：色々な疑問文に答える	疑問文・否定疑問文の答え方を学習する
31	Yes/No疑問文以外の答え方を学ぶ	
32	Unit14：日本語の主語と英語の主語の違いを学ぶ	日本語と英語での意味の変わり方、文の作り方を学習する
33	両言語の主語・目的格の違いについて学習する	
34	Unit15：実際のTOEIC問題に挑戦！	TOEICの問題にチャレンジする

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年	担当教員	今井シャリーン
科　目　名	Presentation　Ⅰ	時間数	34単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業/オンライン
使用テキスト名	Speaking of Speech Premium Edition		
補助教材			

科目概要と科目到達目標

This course is designed to enable students to learn in English presentation skills. The first year will focus on the vocabulary, form, genre, understanding and application as well as other points such as grammar and function. Situational applications of English conversation will aso be emphasised. Students will be able to gain greater understanding of English, the use of the langauge and its development. Students will be able to apply that knowledge in perfromance, tests and real life situations.

授業の進め方・学習方法・課題

Challenge of the course is to speak in English andgive a live presentation. In addition, to listen and quickly understand is essential. By using English as the primary language, students will have a greater world understanding and sensitivity.

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①定期試験50%　②授業への積極的参加20%　③提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

Native of California, USA; 38 years teaching experience in USA, Japan & Europe; M.A. TEFL

週数	学習内容	学習のねらい
1	What is TED? Introduction	Skills & techiques to be taught
2	Demonstration Presentation	Model presentaion & genre
3	Introduce Online system; Using Internet Resources	Setting up online sources & links
4	The Physical Message	Foundations of Physical Communication
5	↓	Prepare and Perform Home town Presentation
6	Gestures	Supporting your words with physical communication
7	↓	Prepare and Perform Preference of ideal campus
8	Voice Inflection	How to emnphasize key words to an audience
9	↓	Prepare and Perform Cooking Demo
10	Introduce The Visual Message	Tools used to create the Visual Message
11	Introduction and Practice	Using PowerPoint; Keynote for Presentation
12	Effective Visuals	Analyze two kinds of presedntationss
13	↓	↓
14	Explaining Visuals	Showing Comparisons; Most effective technics
15	↓	↓
16	My inspiration; Reporting what someone said	Using your voice effectively
17	↓	↓
18	Visual Presentation	Prepare & Present a comparison of two countries
19	↓	↓
20	TOEIC公開テスト対策	Creating effective slides; weighing both sides; use of interesting vocabulary and physical dstyles
21	↓	↓
22	The introduction	Designing Intersting Intros
23	↓	↓
24	The Body: Written Content	Working with tables or Graphs; Presenting Statistics in an intersting manner
25	↓	↓
26	The Conclusion: Finish off with power!	Making Memorable Conclusions
27	↓	↓
28	Prepare Presdentaion	Create individual or grpoup Presentation: Topic to be decided by group or individual
29	↓	↓
30	Practice Review	Demonstrate a Outline performance of Presentation; Peer review
31	↓	↓
32	Final Presentations	Final Perfromance; Peer Review
33	Final Presentation	
34	Final Presentation	

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年	担当教員	Maya
科　目　名	Pronouciation Ⅰ	時間数	34単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業/オンライン
使用テキスト名	Discovering English Sound		
補助教材			

科目概要と科目到達目標

科目概要：日本語の発音とアメリカ英語の発音の違いを学び、実際のコミュニケーションに役立つ力を養う
科目到達目標：日本語の発音とアメリカ英語の発音の違いを学び、実際のコミュニケーションに役立つ力を養う

授業の進め方・学習方法・課題

日本語の発音とアメリカ英語の発音の違いを学び、実際のコミュニケーションに役立つ力を養う

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

30%、課題40%、テスト30%

【成績評価基準】
A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた
B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している
C＝良（79－79点）　到達目標を達成している
D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している
E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	Getting Started	Sounds & Spelling
2	（Diagnostic Test）	Speech Sounds
3	Getting Started	Practical Roll play
4	Getting Started	Consonants & Vowels
5	Getting Started	Review
6	Consonants	Stops & Nasal
7	Consonants	Roll play
8	Consonants	Fricatives
9	Consonants	Review&roll play
10	Consonants	Affricatives & Approximants
11	Consonants	Review and Practice
12	Consonants	More about Consonants
13	Consonants	Review
14	Vowels	Front & Back
15	Vowels	Pronunciation check
16	Vowels	Dipthongs & Central Vowels
17	Vowels	Mid term Test
18	Vowels	Review the Test
19	Vowels	Phonetic Symbols
20	Vowels	Practice
21	Grouping	Syllables & Consonant Cluster
22	Grouping	Practical Roll play
23	Grouping	Lnaguage Play & Sound Patterns
24	Grouping	Review
25	Words	Stress & Forms
26	Words	Pair working practice
27	Words	Phonemes & Allophones
28	Words	Practice
29	Words	Phonological Rules
30	Sentences & Ryhtm	Linking & Assimilation
31	Sentences & Ryhtm	Review
32	Sentences & Ryhtm	Test Preparation
33	Sentences & Ryhtm	Test Preparation
34	Final Test	Diagnostic Test Review & Progrss Report

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	国際英語コミュニケーション科	必須・選択	必須
学　　年	1年生	担当教員	皆川・小林・寺田
科　目　名	英文法（中級・上級）	時間数	68単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業
使用テキスト名	高校とってもやさしい英文法		
補助教材			

科目概要と科目到達目標

科目到達目標：基礎的な英文法を理解し、英語表現力向上を計る

授業の進め方・学習方法・課題

英文のイメージトレーニングを身に付けるために文章の基本的な形を覚える

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①定期テスト50％、②課題提出率30％、授業に対する意欲20％

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	第1章　文の種類	基本的な文の形
2	第2章　動詞と文型①	be動詞の使い方
3	第2章　動詞と文型②	一般動詞の使い方
4	第2章　動詞と文型の復習	be動詞・一般動詞の使い方の復習と確認
5	第3章　命令文	命令文の基本用法を学習する
6	第4章　疑問詞・疑問文①	5W1Hの疑問詞を用いた構文を学習する
7	第4章　疑問詞・疑問文②	5W1Hの疑問詞を用いた構文を学習する
8	第5章　進行形①	現在進行形の基本・応用を学習する
9	第5章　進行形②	過去進行形・未来進行形を学習する
10	第6章　過去の文①	過去形の基本型を学ぶ
11	第6章　過去の文②	過去形の応用型を学ぶ
12	第7章　未来の文①	be動詞を用いた未来形を学習する
13	第7章　未来の文②	助動詞willを用いた未来形を学習する
14	第8章　いろいろな分	知覚動詞・使役動詞を学習する
15	第9章　There is構文	There is構文の基本型・否定形・疑問形を学習する
16	復習	前期までの復習
17	評価	中間テスト
18	第10章　不定詞①	不定詞の副詞的用法を学習する
19	第10章　不定詞②	不定詞の名詞的用法を学習する
20	第10章　不定詞③	不定詞の形容詞的用法を学習する
21	第11章　比較	比較・最上級を学習する
22	第12章　受動態①	受動態の基本型を学ぶ
23	第12章　受動態②	受動態の応用型を学ぶ
24	第13章　現在完了形①	現在完了形の基本・応用を学習する
25	第13章　現在完了形②	現在完了形を用いた疑問形・否定形を学ぶ
26	第14章　不定詞といろいろな文型	不定詞を用いた様々な形を学習する
27	第15章　名詞を修飾する句・節	冠詞・特定冠詞について学習する
28	第16章　関係代名詞①	主格の関係代名詞について学習する
29	第16章　関係代名詞②	目的格の関係代名詞について学習する
30	第17章　関節疑問・付加疑問・否定疑問	様々な疑問形を学習する
31	第18章　感嘆文・話法・仮定法	直接・関節話法、ifを用いた仮定法について学習する
32	総復習	
33	総復習	
34	評価	

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年生	担当教員	今井シャリーン
科　目　名	Culture Studies Ⅰ	時間数	68単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業
使用テキスト名	Essential Humanities (Western History & Society)		
補助教材	パワーポイントスライド		

科目概要と科目到達目標

This course is designed to enable students to learn in English the development of human society. The first year will focus on the vocabulary; understanding and application. Students will be able to gain greater understanding in English about humans and their cultural development as well as apply that knowledge in tests and real life situations.

授業の進め方・学習方法・課題

Challenge of the course is to use English in subject areas that the students have already studied in high school. By using English as the primary language, students will have a greater world understanding and sensitivity. 対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①定期試験50%　②授業への積極的参加20%　③提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	Paleolithic Age	Human development into civilization: Tools, Language, Art, Hunters & Gatherers
2	Paleolithic Age	Human development into civilization: Tools, Language, Art, First Farmers, Hunters & Gatherers
3	Neolithic Age	Human development into civilization: Tools, Language, Art, First Farmers, Urbanization
4	Neolithic Age	Human development into civilization: Tools, Language, Art, First Farmers, Urbanization
5	Review of Early Man	Report, Presentation
6	Review of Early Man	Quiz 1
7	Early Civilizations	Ancient World: Mesopotamia, Egypt
8	Early Civilizations	Ancient World: Indus, China
9	Early Civilizations	Ancient World: Mesoamerica
10	Review of Early Civilizations	Report, Presentation
11	Review of Early Civilizations	Quiz 2
12	Early Civilization Innovations	Language, Tools, Trade, Industry
13	Early Civilization: Creation	Arts, Religion, War
14	Early Civilization: Society	Daily Life, Customs, Family
15	Review: Innovation, Creation, Society	Report, Presentation
16	Review: Innovation, Creation, Society	Quiz 3
17	The Beginning of Modern Societies	Greece, Mycenae, Troy (Aegean Sea)
18	The Beginning of Modern Societies	Alexander the Great (Greece, Egypt, Middle East & India)
19	The Beginning of Modern Societies	Persia (North Africa, Turkey, Middle East)
20	The Beginning of Modern Societies	Rome (Early Europe, Middle East, Balkans; Trade with China and Asia)
21	Review: Modern Societies	Report/Presentation (One society)
22	Review: Modern Societies	Quiz 4
23	Other Societies: Non-Western Growth	Asia: China, Japan, India
24	Other Societies: Non-Western Growth	Africa: Kush/Aksun
25	Other Societies: Non-Western Growth	New World: Mesoamericans
26	Review: Other Societies	Report/Presentation (One society)
27	Review: Other Societies	Quiz 5
28	Development of the Major Religions	Judaism, Christianity, Islam,
29	Development of the Major Religions	Hindi, Buddhism
30	Review: Major Religions	Report/Presentation (all comprehensive)
31	Review: Major Religions	Quiz 6
32	Presentation Project: Most Importatnt Human Development	Report/Presentation (all comprehensive)
33	Presentation Project: Most Importatnt Human Development	Report/Presentation (all comprehensive)
34	Final Exam	Quiz 7

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年生	担当教員	今井シャリーン
科　目　名	Media & Communication	時間数	34単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業
使用テキスト名	21st　Century Communication		
補助教材	パワーポイントスライド		

科目概要と科目到達目標

科目概要と科目到達目標：様々なメディアやSNSに触れ、異文化理解や自ら情報を発信し、SNSやメディアを通じグローバル社会で自己表現を確率する。

授業の進め方・学習方法・課題

リサーチやプレゼンテーションを行い、表現力やアウトプット力を高める。
対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①定期試験50%　②授業への積極的参加20%　③提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた
B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している
C＝良（79－79点）　到達目標を達成している
D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している
E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	ソーシャルメディアの誕生と背景学習　-SNS-	SNSの基礎知識を学ぶ
2	ソーシャルメディアの誕生と背景学習　-TEDTALK-	
3	異文化を超えた意思疎通ツールとは	SNS以外の自己表現方法を学ぶ
4	異文化を超えた意思疎通ツールとは	
5	SNS以前のメディア：Penpal①	アメリカの大学生と文通をする
6	SNS以前のメディア：Penpal②	
7	SNS以前のメディア：Penpal③	
8	Presentation	文通を通じて学んだことを発表
9	SNSを学ぶ：Youtube①	Youtubeがなぜメインストリームとなった要因を探る
10	SNSを学ぶ：Youtube②	
11	SNSを学ぶ：Youtube③	
12	SNSを実践：Youtube編①	アメリカの大学生に向け、Youtubeを作成し、交流を図る。
13	SNSを実践：Youtube編②	
14	SNSを実践：Youtube編③	
15	注目度を上げる工夫と効果①	動画のフィードバックと改善
16	注目度を上げる工夫と効果②	
17	Presentation	前期までの内容をプレゼンテーションにて発表
18	現代のSNSと現代文化　北米編	北米文化とSNSの関連性を解く
19	現代のSNSと現代文化　北米編	
20	現代のSNSと現代文化　北米編	
21	現代のSNSと現代文化　アジア編	アジア文化とSNSの関連性を解く
22	現代のSNSと現代文化　アジア編	
23	現代のSNSと現代文化　アジア編	
24	現代のSNSと現代文化　ヨーロッパ編	ヨーロッパ文化とSNSの関連性を解く
25	現代のSNSと現代文化　ヨーロッパ編	
26	現代のSNSと現代文化　ヨーロッパ編	
27	Presentation　Preparetion	各SNSを用い、文化・思想をプレゼンテーション準備
28	Presentation	上記プレゼンテーションを行う
29	これからの情報技術と文化交流の考察① -ICT-	情報化社会において今後の課題となる事例を考察し、改善策を考える
30	これからの情報技術と文化交流の考察② -IoT-	
31	これからの情報技術と文化交流の考察③ -DX-	
32	Presentation　Preparetion	プレゼンテーション準備①
33	Presentation　Preparetion	プレゼンテーション準備②
34	Final Presentation	期末プレゼンテーション発表

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1学年	担当教員	真島明子
科　目　名	Translation & Interpretation	時間数	34時間単位
開講期間	通年	単位数	－
使用テキスト名	目指せ！世界中どこでも通じる英語力　ゼロからスタートEnglish		
補助教材	通訳トレーニングに必要な教材を抜粋した資料集を使用。		

科目概要と科目到達目標

科目概要:　　通訳に必要な諸々の技術を教える

科目到達目標:　基礎練習、応用演習を経て、簡単な通訳ができるまでに育成する。

授業の進め方・学習方法・課題

日本文化研究で調べた情報を英語に翻訳

想定される質問を含めて、プレゼンテーションスキルを身に付ける

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①定期試験50%　②授業への積極的参加20%　③提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

国際連合ニューヨーク本部にて、技術援助プロジェクト企画担当官として、5年半従事（3年間、ニューヨーク本部、2年半は、国連バングラデシュ支局に勤務）。その間、様々な国を視察で、訪問。帰国後、新潟県知事、並びに、新潟市長の公式行事通訳を7年間務める。その後、1990年に自分の会社を興し、通訳派遣、通訳トレーニイング、翻訳業務、外国語トレーニングのスクールを開校、現在に至る。

週数	学習内容	学習のねらい
1	●通訳入門基礎練習：重要単語の聞き取り(13回)	
2	英文を聞いて理解するには、単語力プラス様々な	
3	背景知識が、重要である事を認識してもらう。	
4	1回目から13回目まで、各回テーマ別に一章づつ	
5	14章まで、網羅。	
6	同上	
7	同上	
8	同上	
9	同上	
10	同上	
11	同上	
12	同上	
13	以上、この回まで。	
14	●通訳基礎練習　A)－1）短文の通訳練習	
15	A)-2) 英語から日本語へ通訳	
16	A)-3)　英語から日本語へ通訳	
17	●メモ取り練習　A)日本語から日本語へ	
18	メモ取り練習　B)英語から日本語へ	
19	メモ取り練習　C)英語から日本語へ	
20	●聴解力アップ練習　A)シャドーイング	
21	聴解力アップ練習　B)リピティション	
22	聴解力アップ練習　C)リテンション	
23	●ディクテーション　A)	
24	ディクテーション　B)	
25	●スラッシュ・リーディング　演習　a)	
26	スラッシュ・リーディング　演習　b)	
27	●数字の聞き取り演習　A)	
28	数字の聞き取り演習　B)	
29	●通訳基礎演習　A)単語の通訳演習	
30	●通訳基礎演習　B)文章の通訳演習	
31	●通訳演習　＜応用編＞　A)	
32	通訳演習　＜応用編＞　B)	
33	通訳演習　＜応用編＞　C)	
34	通訳演習　＜応用編＞　D)	

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年生	担当教員	阿部塊地
科　目　名	キャリアアップⅠ	時間数	34単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業
使用テキスト名	勝つための就職ガイド　NEW SUCCESS		
補助教材	パワーポイントスライド		

科目概要と科目到達目標

科目到達目標：就職活動に必要な自己分析、書類作成、面接指導を行う

授業の進め方・学習方法・課題

自己PRを自己分析シートを使って正しい言葉を使いながら文章に仕上げる

業界に適した一般常識問題をマスターする

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

一般常識テスト40%、書類作成の理解度30%、学習意欲20%、面接対策10%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

キャリアアドバイザー検定取得者、実務経験6年　航空、一般企業勤務経歴有

週数	学習内容	学習のねらい
1	SUCCESS P6～P11 就職活動の心構え	社会人と学生の違いを知る
2	SUCCESS P12～P16就職活動の心構え	社会人と学生の違いを知る
3	SUCCESS P17～P20 ①自分自身を知る②自己分析で考えるポイント	
4	SUCCESS P21　①自己PRの作り方	自己分析をする
5	SUCCESS P24　①現在までの自分史を作成しよう	自己分析をする
6	SUCCESS P25 ①自己PR分の基本構成作成	自己分析をする
7	SUCCESS P27～29　①職業を知る　（業種と職種の理解）	職業観を身に付ける
8	SUCCESS P30～P31 志望動機　①志望動機とは何か②基本パターン	職業観を身に付ける
9	SUCCESS P32～P34 志望動機　①志望動機作成ワークシート（専門職、営業）	志望動機を書くためのポイント
10	SUCCESS P35～P37情報収集のポイント　①職種企業を絞り込むには	職種について考える
11	SUCCESS P38～P39企業研究の方法	企業研究の方法を学ぶ
12	SUCCESS P40～P41就活における電子メール使用の注意点	個人情報について学ぶ
13	SUCCESS P42　facebook twitterの活用について	SNSについて学ぶ
14	SUCCESS P43～P44　資料請求の仕方（はがきの場合、メールで請求の場合）	資料請求について
15	SUCCESS P45　お礼状の書き方①メールの場合②手紙の場合	書類の書き方を学ぶ
16	SUCCESS P46～48　求人票の見方①求人者②採用条件③勤務条件	求人票の見方とナローワークに関して理解する
17	SUCCESS P49～50　インターンシップのしくみ　①インターンシップ体験の活かし方	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟの利点を理解する
18	SUCCESS P51～P52　作成書類　①エントリーシートとは②エントリーシートの書き方	エントリーシートとは何かを学ぶ
19	SUCCESS P53　　作成書類　①エントリーシートの入手時期と内容	会社別エントリーシートとは
20	TOEIC公開テスト対策	履歴書作成に関しての注意点を学ぶ
21	SUCCESS P56～P57　第一回作成書類　①履歴書作成個人作業	履歴書を書いてみる
22	SUCCESS P56～P57　第二回作成書類　①履歴書作成個人作業	履歴書を書いてみる
23	SUCCESS P58　　応募書類の添え状について	添え状の書き方について学ぶ
24	最新最強の一般常識　時事問題　政治　国際情勢	筆記試験対策
25	最新最強の一般常識　時事問題　経済①経済の基礎知識の確認	筆記試験対策
26	最新最強の一般常識　時事問題　経済①経済情勢を把握する	筆記試験対策
27	最新最強の一般常識　時事問題　産業①産業界の分析②労働に関した法律	筆記試験対策
28	最新最強の一般常識　時事問題　金融①金融用語の把握②金融商品	筆記試験対策
29	最新最強の一般常識　時事問題　科学技術①コンピューター用語	筆記試験対策
30	最新最強のSPI　SPIの基礎知識　SPI適正検査とは	筆記試験対策
31	最新最強のSPI　非言語能力問題	筆記試験対策
32	最新最強のSPI　非言語能力問題	筆記試験対策
33	最新最強のSPI　言語能力問題	筆記試験対策
34	最新最強のSPI　言語能力問題	筆記試験対策

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年生	担当教員	北村裕美
科　目　名	秘書検定対策	時間数	34単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業
使用テキスト名	秘書検定3級集中講義		
補助教材			

科目概要と科目到達目標

科目到達目標：　秘書検定３級合格とのビジネスの場で必要な文書、ファイリング、事務用品、会議などについての初歩的な知識、用語を学ぶ。オフィスの環境整備についての知識やビジネスマナーを身に付ける.

授業の進め方・学習方法・課題

社会人として適切な正しい日本語や必要なマナーやビジネスメールの書き方などを授業を通して学ぶ

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①定期試験50%　②授業への積極的参加20%　③課題提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	第1章　秘書のこころ構え	社会人としての心構え
2	第1章　秘書のこころ構え	機密を守る
3	第1章　秘書のこころ構え	仕事を処理する際の心構え
4	第2章　要求される資源	秘書に求められる基本能力
5	第2章　要求される資源	要求される人柄と身だしなみ
6	第2章　職務上の心得と仕事の進め方	職務上の心得
7	第2章　職務上の心得と仕事の進め方	仕事の進めかた
8	第3章　企業の基礎知識	企業の形態と組織
9	第3章　企業の基礎知識	さまざまな企業活動
10	第3章　社会常識	基本用語を身につける
11	第4章　マナー・接遇　職場での話し方	人間関係と話し方
12	第4章　マナー・接遇　職場での話し方	敬語と言葉使いの基本
13	第4章　マナー・接遇　職場での話し方	話し方・聞き方の応用
14	第4章　マナー・接遇　電話対応	電話のマナーと応対の基本
15	第4章　マナー・接遇　電話対応	電話のマナーと応対の基本
16	Review	
17	Assessment Test	
18	第4章　マナー・接遇　接遇	待遇の基本
19	第4章　マナー・接遇　接遇	待遇の要領とマナー
20	TOEIC公開テスト対策	慶事と弔事への対応
21	第4章　マナー・接遇　交際	贈答の習わしと食事のマナー
22	第5章　技能　会議	会議と秘書の業務
23	第5章　技能　文書の作成	社内文書
24	第5章　技能　文書の作成	社外文書・メモの取り方・グラフの作り方
25	第5章　技能　文書の取扱い	発信・受信業務と関連知識
26	第5章　技能　文書の取り扱い	郵便の知識
27	第5章　資料管理	ファリングと各種資料管理
28	第5章　日程管理・ファイリング	日程管理とオフィス管理
29	過去問	過去問題をとく
30	過去問	過去問題を解く
31	過去問	過去問題を解く
32	過去問	過去問題を解く
33	過去問	過去問題を解く
34	Assessment Test	

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年生	担当教員	今井真由美
科　目　名	PC実習Ⅰ	時間数	68単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業
使用テキスト名	Microsoft　Word/Excel　2019 クイックマスター		
補助教材	Word 文書処理技能認定試験　問題集		

科目概要と科目到達目標

Word処理技能検定3級取得

Excel表計算処理技能認定試験3級　取得

授業の進め方・学習方法・課題

Word処理技能検定3級・Excel表計算処理技能認定試験3級　合格

3級に必要な時間内でのタイピング、罫線の引き方、文字設定の仕方、印刷のかけ方

など基本的な作業を理解し、ビジネスレターやポスターなどを効率的に製作する方法を学ぶ

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①出席　②提出課題　③授業態度 ④検定取得

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	Chapter1 Wordの基本ー（Wordの起動・画面構成・操作・ヘルプの使い方）	基本操作の理解
2	Chapter1練習問題・テスト	文字入力について
3	Chapter2 文字入力と基本操作ー（新規文書の作成・日本語入力システム）	文字入力について
4	文字入力と基本操作ー（文字の入力と変換・単語の登録）	文字入力について
5	文字入力と基本操作ー（文書の保存・文字の選択）	文字入力について
6	文字入力と基本操作ー（文字列の編集・コピー・移動）	文字入力について
7	Chapter2練習問題・テスト	文字入力について
8	Chapter3 文書の編集ー（学習する内容・ページ書式設定）	文章の編集について
9	文書の編集ー（文字の書式設定・文字幅と間隔の設定）	文章の編集について
10	文書の編集ー（文字の配置・字下げと行間の設定）	文章の編集について
11	文書の編集ー（禁則処理・罫線と網掛け）	文章の編集について
12	Chapter3練習問題・テスト	文章の編集について
13	Chapter4 文書の印刷ー（学習する内容・改ページの挿入）	印刷について
14	文書の印刷ー（ヘッダー・フッターの設定）	印刷について
15	文書の印刷ー（印刷イメージの確認方法・印刷の実行）	印刷について
16	Chapter4練習問題・テスト	印刷について
17	Chapter5 文書の作成ー（学習する内容・入力オートフォーマット／あいさつ文）	文章フォーマットについて
18	文書の作成ー（学習する内容・入力オートフォーマット／段落番号・設定）	文章フォーマットについて
19	文書の作成ー（箇条書きの設定・タブ）	文章フォーマットについて
20	TOEIC公開テスト対策	文章フォーマットについて
21	文書の作成ー（ビジネス文書の作成例）①	文章フォーマットについて
22	文書の作成ー（ビジネス文書の作成例）②	文章フォーマットについて
23	Chapter5練習問題・テスト	文章フォーマットについて
24	Chapter6 表を使った文書の作成ー（学習する内容・表の作成）	表の作成について
25	表を使った文書の作成ー（表の選択方法・表の編集）	表の作成について
26	表を使った文書の作成ー（表の装飾・文字列から表を作成する）	表の作成について
27	Chapter6練習問題・テスト	表の作成について
28	Chapter7 図形や画像を使った文書の作成ー（学習する内容・図形の作成）①	図形や画像作成について
29	図形や画像を使った文書の作成ー（図形の作成）②	図形や画像作成について
30	形や画像を使った文書の作成ー（図形の編集・挿入）①	図形や画像作成について
31	形や画像を使った文書の作成ー（図形の編集・挿入）②	図形や画像作成について
32	形や画像を使った文書の作成ー（横書きテキスト　ボックスの挿入・ワードアートの挿入）	図形や画像作成について
33	Chapter7練習問題・テスト	図形や画像作成について
34	綜合学習問題・テスト	

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	選択
学　　年	1年	担当教員	加藤 広美
科　目　名	ビジネスメイクⅠ	時間数	34単位時間
開講期間	前期	授業形態	対面授業
使用テキスト名	なし		
補助教材			

科目概要と科目到達目標

科目到達目標：自分自身で自分の顔をIMAGE　MAKINGし社会人にふさわしいメイクを学ぶ

対面授業と遠隔授業の併用実施

授業の進め方・学習方法・課題

基礎となるベースメイクから業界に応じたビジネスメイクのしかたをそれぞれの学生にあった手入れの仕方を教える

評価方法・成績評価基準

出席率50%、テスト30%、積極性20%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

某化粧品会社に勤務経験あり

企業へのマナー研修指導多数

週数	学習内容	学習のねらい
1	●はじめに・・・・　何故メイクをするのか？　授業進度について　評価方法	自分の顔にあったメイクを学ぶ
2	●自己紹介　・メイクについて絡ませながらの自己紹介	自分の顔にあったメイクを学ぶ
3	●自分流のメイク	マナーとエチケットに違いを学ぶ
4	●普段のメイクと仕事メイクの違いについて	マナーとエチケットに違いを学ぶ
5	●接客業メイクについて　　業種別メイク	職業別のメイクの特徴
6	●顔立ちからのメイク方法	職業別のメイクの特徴
7	●顔立ちからのメイク方法　・下地　保湿	基礎メイクの方法を学ぶ
8	●顔立ちからのメイク方法　・下地　保湿	基礎メイクの方法を学ぶ
9	●顔立ちからのメイク方法　・下地　保湿	基礎メイクの方法を学ぶ
10	●顔立ちからのメイク方法　・ベース	基礎メイクの方法を学ぶ
11	●顔立ちからのメイク方法　・ベース	基礎メイクの方法を学ぶ
12	●顔立ちからのメイク方法　・眉	基礎メイクの方法を学ぶ
13	●顔立ちからのメイク方法　・眉	基礎メイクの方法を学ぶ
14	評価	
15	●業界別メイクの特徴	業界別メイクとは
16	●業界別メイクの特徴	業界別メイクとは
17	●社会人としてふさわしい髪型とメイク	社会人にふさわしいメイクとは
18	●社会人としてふさわしい髪型とメイク	社会人にふさわしいメイクとは
19	●トータルメイクアップ	
20	TOEIC公開テスト対策	社会人にふさわしいメイクとは
21	●社会人としてふさわしい髪型とメイク	社会人にふさわしいメイクとは
22	●トータルメイクアップ	自分に合ったメイクとは
23	●トータルメイクアップ	自分に合ったメイクとは
24	●トータルメイクアップ	自分に合ったメイクとは
25	●トータルメイクアップ	自分に合ったメイクとは
26	●メイクアップとビジネスマナーについて	仕事におけるメイクの大切さは何かを学ぶ
27	●メイクアップとビジネスマナーについて	仕事におけるメイクの大切さは何かを学ぶ
28	●メイクアップとビジネスマナーについて	仕事におけるメイクの大切さは何かを学ぶ
29	●メイクアップとビジネスマナーについて	仕事におけるメイクの大切さは何かを学ぶ
30	●立ち居振る舞い	服装に適したメイクとは何かを学ぶ
31	●立ち居振る舞い	服装に適したメイクとは何かを学ぶ
32	●立ち居振る舞い	服装に適したメイクとは何かを学ぶ
33	評価	
34	評価	

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	全学科	必須・選択	選択必修
学　　年	1年生	担当教員	富田
科　目　名	第二外国語中国語Ⅰ	時間数	68単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業
使用テキスト名	グッと入門中国語		
補助教材	中国語検定過去問題		

科目概要と科目到達目標

中国語検定試験準4級取得または準4級取得程度の文法と単語を習得する。
中国語で定型の挨拶や簡単な日常会話ができるようになる。
文字を見て正しい発音ができるようになる。

授業の進め方・学習方法・課題

前期では正しい発音と文字の習得を目標とし、文字を見て発音できるように訓練する。
後期は主に講義を通じて、日常生活に必要な単語や表現を習得し、
意思疎通に最低限必要な文法を学ぶ。発話練習や適宜検定の過去問題にも取り組む。

評価方法・成績評価基準

①定期試験50%　②授業への積極的参加20%　③提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】
A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた
B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している
C＝良（79－70点）　到達目標を達成している
D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している
E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	発音編	声調と単母音の習得
2	発音編	子音の習得
3	発音編	複母音と鼻母音の習得
4	発音編	発音まとめ～ウォーミングアップ
5	第一課　文法説明	「AはBです」が言える
6	第一課　入替練習	「AはBです」が言える
7	第一課　本文	「AはBです」が言える
8	第一課　練習問題と漢字ドリル	「AはBです」が言える
9	第二課　文法説明	モノを指して「これは～です」が言える
10	第二課　入替練習	モノを指して「これは～です」が言える
11	第二課　本文	モノを指して「これは～です」が言える
12	第二課　練習問題	モノを指して「これは～です」が言える
13	第三課　文法説明	簡単な動作が言える
14	第三課　入替練習	簡単な動作が言える
15	第三課　本文	簡単な動作が言える
16	第三課　練習問題と漢字ドリル	簡単な動作が言える
17	前期試験	前期学習内容の定着
18	第四課　文法説明	モノの状態が言える
19	第四課　入替練習	モノの状態が言える
20	第四課　本文	モノの状態が言える
21	第四課　練習問題と漢字ドリル	モノの状態が言える
22	第五課　文法説明	年齢や学年が言える
23	第五課　入替練習	年齢や学年が言える
24	第五課　本文	年齢や学年が言える
25	第五課　練習問題と漢字ドリル	年齢や学年が言える
26	第六課　文法説明	建物の場所が言える
27	第六課　入替練習	建物の場所が言える
28	第六課　本文	建物の場所が言える
29	第六課　練習問題と漢字ドリル	建物の場所が言える
30	第七課　文法説明	時間が言える
31	第七課　入替練習	時間が言える
32	第七課　本文	時間が言える
33	第七課　練習問題と漢字ドリル	時間が言える
34	後期試験	後期学習内容の定着

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	全学科	必須・選択	選択必修
学　　年	1年生	担当教員	柳・宇都宮・中林
科　目　名	韓国語Ⅰ	時間数	68
開講期間	通年	授業形態	対面・オンライン授業
使用テキスト名	基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版		
補助教材			

科目概要と科目到達目標

科目到達目標：ﾊﾝｸﾞﾙ能力検定試験　5級取得または5級取得程度の文法と単語の習得
定型の挨拶や簡単な会話ができるようになる。
文字をみて正しい発音ができるようになる。

授業の進め方・学習方法・課題

前期では文字の習得を主な目標とし、文字を見て発音できるように
グループワークなどを通じて行う。
後期は、日常生活に必要な単語を習得し、意思疎通に最低限必要な文法を
講義形式中心に行う。授業後半では必ず発話練習をペアワークで行う。

評価方法・成績評価基準

①定期試験50%　②授業への積極的参加20%　③提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】
A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた
B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している
C＝良（79－70点）　到達目標を達成している
D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している
E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	韓国語について	文字、基本的な発音の習得
2	基本の母音	母音の特徴を学ぶ
3	基本の子音	子音の特徴を学ぶ
4	合成母音	母音の種類について学ぶ
5	パッチム	位置や場所を話すことができる
6	文字の復習	文字についての総まとめ
7	基本的なフレーズと挨拶	挨拶の種類とフレーズを使う
8	第1課　私は浅井ゆかりです	自己紹介ができる
9	第2課　出身はソウルですか	出身地について学ぶ
10	第3課　図書館ではありません	時間を話す
11	第4課　時間がありますか	日にちを話す
12	第5課　何をしますか	やりたいことを伝える
13	第6課　貿易会社で働いています	仕事について話す
14	第7課　服を買います	予定について話す
15	前期　復習①	テキストの復習
16	前期　復習②	テキストの復習
17	前期試験	
18	第8課　スーパーでよく買います①	買い物に必要なことを話す
19	第8課　スーパーでよく買います②	旦体が作れる
20	第9課　1万ウォンです①	お金について学ぶ
21	第9課　1万ウォンです②	お釣りについて学ぶ
22	ﾊﾝｸﾞﾙ能力試験5級検定対策　①	模擬問題を解く
23	ﾊﾝｸﾞﾙ能力試験5級検定対策　②	模擬問題を解く
24	ﾊﾝｸﾞﾙ能力試験5級検定対策　③	模擬問題を解く
25	ﾊﾝｸﾞﾙ能力試験5級検定対策　④	模擬問題を解く
26	第10課　今、何時ですか①	時間について話す
27	第10課　今、何時ですか②	時間について話す
28	第11課　日本語を話されますか①	第3者に紹介する
29	第11課　日本語を話されますか②	よりフォーマルな場で自己紹介する
30	第12課　バスは行きません①	乗り物について話す
31	第12課　バスは行きません②	乗り物について話す
32	後期　復習①	テキストの復習
33	後期　復習②	テキストの復習
34	後期試験	

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年生	担当教員	阿部塊地
科　目　名	LiberalArt Ⅰ	時間数	17時間
開講期間	通期	授業形態	対面授業/オンライン
使用テキスト名	なし		
補助教材	SPI問題集（永岡書店）、時事英語、パワーポイントスライド		

科目概要と科目到達目標

科目概要：道徳やディスカッションを通して物事を考えたり話し合う必要性を見出す。

科目到達目標：発言力、発信力を身につけ相手に自身の意見を伝えられる会話力を身につける。

授業の進め方・学習方法・課題

1つのトピックにたいして4人グループで話し合い各グループそれぞれの意見を発表し合い、情報をシェアすることで自分の意見だけでなくいろいろな方向からの意見を聞くことで学生一人ひとりの発想力や自分から発信していく力を養う。評価週では1つの題について自分の意見を日本語で書く練習をする。

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

出席30%、テスト30%、課題40%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	非言語分野『基本計算編』	学校生活について考える
2	非言語分野『基本計算編』	
3	非言語分野『基本計算編』	
4	非言語分野『図表関連問題編』	
5	非言語分野『図表関連問題編』	学校生活と海外留学について考える
6	非言語分野『図表関連問題編』	
7	非言語分野『思考関連問題編』	
8	非言語分野『思考関連問題編』	
9	非言語分野『思考関連問題編』	海外留学と大学について考える
10	非言語分野『事柄関連問題編』	
11	非言語分野『事柄関連問題編』	
12	非言語分野『事柄関連問題編』	
13	非言語分野『文章理解問題編』	大学の学則について考える
14	非言語分野『文章理解問題編』	
15	SPI性格適正検査	
16	SPI模擬試験	
17	SPI模擬試験	
18	時事英語「新聞記事抜粋」	日常生活について考える
19	時事英語「新聞記事抜粋」	
20	時事英語「新聞記事抜粋」	
21	時事英語「新聞記事抜粋」	
22	時事英語「新聞記事抜粋」	事件について
23	時事英語「新聞記事抜粋」	
24	時事英語「新聞記事抜粋」	
25	時事英語「新聞記事抜粋」	
26	時事英語「新聞記事抜粋」	環境について
27	時事英語「新聞記事抜粋」	
28	時事英語「新聞記事抜粋」	
29	時事英語「新聞記事抜粋」	
30	時事英語「新聞記事抜粋」	政治・経済について
31	時事英語「新聞記事抜粋」	
32	時事英語「新聞記事抜粋」	
33	時事英語「新聞記事抜粋」	
34	Assessment	

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年生	担当教員	坂上/阿部/北村/矢後
科　目　名	国際理解　Ⅰ	時間数	68単位時間
開講期間	通年	授業形態	対面授業
使用テキスト名	SDGs見るだけノート		
補助教材	パワーポイントスライド		

科目概要と科目到達目標

科目概要：世界が取り組んでいるSDGsについて学び、日本の抱えている現状を把握し問題解決に目を向ける。

科目到達目標：持続可能な目標達成について自分たちができる事、問題について取り組みプレゼンテーションを企業と連携し課題解決に目を向ける

授業の進め方・学習方法・課題

日本が抱えている問題を企業から事例をあげてもらいグループで話し合い、解決提案をグループで考える

グループで考えたことをシェアし問題点、解決策を提示し、プレゼンする。

対面授業と遠隔授業の併用実施

評価方法・成績評価基準

①プレゼンテーション40%、②課題提出率30%、③学習意欲30%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－79点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	はじめに	SDGsとは
2	世界を変える17の目標と169のターゲット	
3	SDGs　これまでの歴史	
4	SDGs　1～17解説	目標とターゲット
5	SDGs　1～17解説	目標とターゲット
6	SDGs　1～17解説	目標とターゲット
7	SDGs　1～17解説	目標とターゲット
8	SDGs17での改善点とは	諸外国との協力
9	SDGsを理解する上で把握しておくべきこと	それぞの企業について
10	SDGSの将来の方向性と重要性	グローバルコモンズ・エコロジカルの重要性
11	生物生産・循環化能力問題	資源不足
12	17目標に関連する諸研究とその展開	研究開発等、諸外国に焦点を当てる
13	アジェンダ—30SDGs17目標の結び	持続可能な人類社会を実現する
14	発表	GRPに分かれて発表
15	発表	GRPに分かれて発表
16	発表	GRPに分かれて発表
17	まとめ	
18	企業がSDGsに取り組むべき理由	世界で求められていることとは？
19	SDGsとCSR　CSVの違いとは？	SDGsを理解して違いを知る
20	TOEIC公開テスト対策	市場における価値を学ぶ
21	企業がSDGsの活用を進める4つのメリット	メリット・デメリットを考える
22	できること、できそうなことをからSDGsに取り組む	できること、できそうなこと
23	SDGs先進国スウェーデンの「高い環境意識」	スウェーデンのSDGs
24	企業との連携　サプライチェーンから見えてくること	1社ではできないことができる
25	企業が起こした様々な不祥事	「環境」や人「権問題」
26	「サプライチェーン」と「バリューチェーン」とは	SDGsを取り組む上で知っておくべきこと
27	サプライチェーン上で起こる主な問題	サプライチェーンには様々な問題が隠れている
28	サプライチェーンマネジメントとは	リスクマネジメント
29	企業は経営とSDGsをどうリンクさせるのか？	持続可能なサプライチェーンを構築する原動力とは
30	日本の企業の進捗状況は？	ビジネスとSDGsを両立させる　企業の取り組みから学ぶ
31	発表	GRPに分かれて発表
32	発表	GRPに分かれて発表
33	発表	GRPに分かれて発表
34	発表	まとめ

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年	担当教員	矢後　達夫
科　目　名	国内地理	時間数	34単位時間
開講期間	前期及び後期	授業形態	対面授業
使用テキスト名	昭文社「旅地図・日本」		
補助教材	パワーポイントスライド　PDF教材（国内地理JTB教材より引用）		

科目概要と科目到達目標

日本国内の観光資源（自然・温泉・祭事等）についての学習について理解を深め、
地域資源の魅力を再発見し地理を活用した社会実務の補助とする。

授業の進め方・学習方法・課題

テキストと問題集を活用し、授業用プリントを作成、使用し進める。
定期的にテストと補講を実施。
地理検定は6月のみのため、次年度受験を推奨。

評価方法・成績評価基準

①定期試験50%　②授業への積極的参加20%　③提出物20%　④学習意欲10%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた
B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している
C＝良（79－79点）　到達目標を達成している
D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している
E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

旅行会社にて、カウンターを含む旅行渉外営業、旅行企画手配、旅程作成、旅券書類作成、出入国書類作成、旅行傷害保険作成、添乗他、旅行に係わる実務経験　10年間

週数	学習内容	学習のねらい
1	国内地理　導入（勉強法・基礎理解）	地理勉強方法、都道府県庁所在地の理解
2	国立公園・山岳	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
3	高原・湿原	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
4	湖・池・沼	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
5	島・岬・半島	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
6	海岸・鍾乳洞・洞窟	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
7	河川・渓流	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
8	渓谷・峡谷・谷	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
9	庭園・小京都	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
10	温泉（東日本）	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
11	温泉	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
12	祭り	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
13	寺社・仏閣	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
14	博物館・美術館	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
15	民謡・陶磁器・郷土料理	日本の観光名所・旧跡・風土を探求
16	確認テスト	まとめ
17	確認テスト	まとめ
18	国内地理　後期オリエンテーション	前期の振り返り
19	国立公園・山岳	前期学んだ箇所のエリア学習
20	高原・湿原	前期学んだ箇所のエリア学習
21	湖・池・沼	前期学んだ箇所のエリア学習
22	島・岬・半島	前期学んだ箇所のエリア学習
23	海岸・鍾乳洞・洞窟	前期学んだ箇所のエリア学習
24	河川・渓流	前期学んだ箇所のエリア学習
25	渓谷・峡谷・谷	前期学んだ箇所のエリア学習
26	旅行地理」検定対策	実力判定
27	旅行地理」検定対策	実力判定
28	旅行地理」検定対策	実力判定
29	旅行地理」検定対策	実力判定
30	旅行地理」検定対策	実力判定
31	旅行地理」検定対策	実力判定
32	旅行地理」検定対策	実力判定
33	確認テスト	まとめ
34	確認テスト	まとめ

国際外語・観光・エアライン専門学校

学　科　名	上級英語科	必須・選択	必須
学　　年	1年	担当教員	北村　裕美
科　目　名	ビジネスマナー	時間数	34
開講期間	通年	授業形態	対面・オンライン授業
使用テキスト名	実践ビジネスマナー		
補助教材	パワーポイント　スライド		

科目概要と科目到達目標

社会人としての心構えなど、社会に出る前に習得すべき内容を身に付ける

授業の進め方・学習方法・課題

秘書検定の授業で、基本的なマナーを学んでいるのでロールプレイにて身に付けることで習得させる。

評価方法・成績評価基準

①定期試験　20 %　②授業への積極的参加(出席率)50%　③提出物　10%　④学習意欲　20%

【成績評価基準】

A＝秀（100－90点）　到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた

B＝優（89－80点）　達成目標を十分に達成している

C＝良（79－70点）　到達目標を達成している

D＝可（69－60点）　到達目標を最低限達成している

E=不可（59点以下）　到達目標に達成していない

実務経験教員の経歴

週数	学習内容	学習のねらい
1	はじめに	マナーとは？
2	身だしなみチェック　立ち方チェック	姿勢・スーツの着こなし方　歪みチェック
3	基本動作　立ち方と挨拶①	立ち方の姿勢
4	基本動作　お辞儀の仕方①	お辞儀の種類　それぞれの意味
5	基本動作　お辞儀の仕方②	お辞儀の種類　それぞれの意味
6	ビデオ撮影	立ち方・お辞儀の仕方　歩き方チェック
7	ビデオ撮影⇒確認　チェック	自分の姿チェックして再確認してもらう
8	受け付け対応　ロールプレイ①	言葉遣い　案内の仕方
9	受け付け対応　ロールプレイ②	お客様への対応
10	エレベーター　廊下　階段案内	案内者の対応など　指し示し方他
11	お茶の出し方①	お茶の出し方　概要
12	お茶の出し方②　ロールプレイ	
13	ロールプレイ　チェック	受け付け　案内　お茶出し　お見送りまで
14	電話応対の仕方①	電話対応　概要
15	電話応対の仕方②　ロールプレイ	様々なお客様への対応　道案内　クレーム　郵送案内
16	電話応対の仕方③　ロールプレイ	様々なお客様への対応　道案内　クレーム　郵送案内
17	まとめ	
18	秘書検定とは？	何故秘書検定を学ぶのか？秘書検定2級検定の問題と試験対策
19	秘書の資質	●社会人としての意識　●補佐役としての秘書
20	秘書の資質	●求められる人間性とセンス　組織の中の秘書
21	一般知識	●会社の経営　●企業会計　●法律
22	一般知識	●人事・労務　●マーケティング　●情報処理
23	マナー・接遇	●人間関係と秘書の心得　●敬語・接遇用語
24	マナー・接遇	●話方・聞き方　●少し複雑な話し方・聞き方
25	マナー・接遇	●来客応対　心構え
26	マナー・接遇	●受付対応
27	マナー・接遇	●応接室への案内・お茶の出し方
28	技能	●ビジネス文書・社内文書・社外文書①
29	技能	●ビジネス文書・社内文書・社外文書②
30	技能	●文書の取り扱い　・適切な郵送の選び方①
31	技能	●文書の取り扱い　・「秘」扱文書他
32	技能	●出張に関する秘書業務①　・出張計画　・準備の進め方
33	技能	●出張に関する秘書業務①　・上司の出張中の仕事　・後の仕事
34	秘書検定試験2級　過去問題	テスト